

ネズミをひっかけたのは ^{だれ}誰？

ある時市内の方から、庭木の「キンモクセイ」にネズミがひっかかっていると連絡があり、さっそく見に行きました。ネズミは庭木の中心部に、足をたらしひっかかっていました。いったい、だれのしわざでしょうか。ネコなら、せまい枝のすきまに入れません。

正体は？

ひっかけた正体はモズだったのです。モズはスズメよりやや大きい野鳥です。なわばりをつくる秋には、畑の杭くわなどの上で尾をぐるぐるまわし「キー、キチキチ」とよく鳴いているのを耳にします。年中見られ、農村や河原、公園や庭にもやってきます。科学文化センターのある城南公園にも時々やってきます。

はやにえ

さて、モズは秋から冬にかけて昆虫やカエル、ネズミなどをつかまえて、とがった枝ゆうしてっせんや有刺鉄線などにひっかけます。これをモズの「はやにえ」と呼んでいます。春にも刺すことがありますが、秋ほどは多くないようです。動物以外にも木の葉なども刺すことがあるようです。モズはハヤブサを思わせるすどいくちばしで虫などをつかまえますが、急所を知っているらしく、胸の部分をつき刺します。見つけたネズミも胸の部分がささり、頭がありませんでした。

はやにえを立てる理由

では、なぜモズははやにえを立てるのでしょうか。生まれながらの本能で、小動物を見つけると、つかまえて刺すという説があります。また、食べ残しや、なわばりの目印だともいわれます。そんなに足が強くないので、獲物とらを足でおさえて引き裂くためともいわれます。えさが不足する冬に備えてはやにえを立て、後で食べるためだともいわれています。しかし、一つの説だけではすべての行動をうまく説明がつかないようです。

モズの食事風景をよく観察すると、つかまえた獲物をすべてはやにえにするわけではなく、おなかですいているとその場ですぐ食べてしまうよう



モズの「はやにえ」

(カエルが枝にひっかかっている)

す。また、はやにえを立てても、その場ですぐに食べる場合や数日、あるいは1-2ヶ月後に食べることもあります。食わずに放置する場合があります。いずれにしてもえさの少ない冬には、はやにえは大切な食料になります。葉が落ちた木の枝にさしておくと、見つけるにも好都合です。冷たい空气中にさらされるのでくさる心配もありません。おいしい干物^{もの}といったところでしょうか。

モズは人里にすむ身近な野鳥です。あなたの家の庭や近所の公園にはやにえがみられるかもしれません。どんな動物がはやにえになっているか、どんな場所にあるのか、はやにえウォッチングをしてみてもいいでしょうか。

(南部久男)



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123

平成5年1月1日発行